



## 17 鶏置物

由木尾雪雄

三点

明治二十五年（一八九二）

蒔絵

雄・高四四・〇、雌・高二五・三、雛・高六・五

ほぼ等身大に鶏の親子を表した置物。雄の背中  
には小さな香炉が納められており、二枚ほど持ち上  
がった羽の下に、煙出しの穴が開けられている。木  
胎に卓抜した高蒔絵の技で羽を一枚一枚描き、薄く  
造形された尾羽は乾漆によると考えられる。目には  
ガラスを嵌め、透き漆で色付けしており、脚部は銀  
製の彫金である。全体に形はよく鶏の姿を写してお  
り、また細部に蒔絵や金工の技術を尽くして鶏冠や  
足の質感を表現している。明治二十五年（一八九二）  
に宮殿の装飾品のひとつとして佐野嘉七より購入さ  
れた品で、銘はないが、作者は由木尾平兵衛（雪雄、  
一八六〇～一九二九）と伝えられる。写実に表さ  
れた鶏の姿には、西洋彫刻の造形表現の影響も垣間  
見える一方、近世期から床飾りに好まれた鳥形香炉  
としての性格も併せ持っており、新旧の要素を兼ね  
備えた置物である。



鶏冠の部分は、平目粉と呼ばれる、金粉を押し潰して作った蒔絵粉を密に置き、朱漆で上塗りして平目粉を研ぎ出している。  
羽は、描割と付描を使い分けて表現している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 明治美術の一断面——研ぎ澄まされた技と美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 82

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成三十年十一月三日発行

© 2018, The Museum of the Imperial Collections, Sanmamaru Shozokan